

疑似体験型森林教室「白神バーチャル体験」について（中間報告）

東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 久保翔太郎
津軽森林管理署 治山グループ 中村 拓哉
米代西部森林管理署 治山グループ 福田 雄貴

1 課題を取り上げた背景

従来の森林教室はフィールドでの散策が基本となっています。そのため、健康に不安がある方や身体に障がいを抱えた方々は、整備が行き届いた限られた場所でなければ参加することが難しい状況となっています。また、当センターの森林教室では、10代～40代の参加者が非常に少ない状況です。そこで、健康に不安がある方などには気軽に自然に親しむ機会作り、10代～40代には自然に興味を持つきっかけ作りができないかと考えました。

2 取組の経過

こうした対象者をフィールドに連れて行くのではなく、室内で「疑似体験型」の森林教室を行うことを考えました。高齢者施設等でこの森林教室に対し需要があるか確認するため、地元の社会福祉協議会で企画を説明したところ、「今までにない取組で利用者の需要は高い」とのことでした。

企画に賛同した東北局管内の若手職員と話し合いを重ね、視覚で森林を体感するための映像や説明に加え、嗅覚や触覚などの五感すべてで森林を体感できるようプログラム作りを進めました。

今年1月には一般の方々を対象に、3月には社会福祉協議会の職員向けに試行を行いました（図1）。また、7月には秋田県能代市で開催された屋外イベントにおいて展示ブースを設け、初めて本格的な実施に至りました。

3 実行結果

試行での評価は非常に高く、参加者からも「自然の香りを実際にかいでもいたい」などの感想をいただきました。

屋外イベントでは、体験していただいた方にアンケート調査を行いました。評価は良かったものの、映像編集の質や森林の再現について改善が必要なおことがわかりました。

4 考察

これまでの参加者からいただいた感想やアンケートから、体験実施後に自然に対する興味が増している事がわかりました。また、「実際に森林に行きたい」という声が多く挙がりました。

以上のことから、この取組は『気軽に自然に親しむ』『自然に興味をもつきっかけ作り』という目的を充分果たせると考えます。

今後もより良いプログラムとなるよう、アンケートや参加者との会話を踏まえ、活動を継続していきます。



（図1）一般の方を対象にした試行の様子